

・晴れの日は野球をすると決まりおりポカリスエット未だなき頃

・三振とピッチャーゴロとエラー一つされど昼飲むビールはうまし

いずれも草野球だが、右は小学生の頃で左は社会人になってから。ポカリスエット（この歌では飲んでいないのだが）とビールの違いに注目すると面白いだろうか。

私などよりもっと本格的に野球をやっていた人の歌として、次の一首を挙げておく。

・ライトから見る本塁はかがやいてレギュラーになれなかつた夏の日

大辻隆弘『水廊』

草野球の経験しかない私には、レギュラーポジションを得られなかつた悔しさは想像するしかないが…。

さて、話題を拙歌集に戻すと、二〇〇二年と〇六年に刊行した歌集に〈野球〉の歌がそれぞれ五首ずつしかなかったことは今回知ったわけだが、昨年出した『野球小僧』には、その名の通り〈野球〉の歌を多く収めた。

まずは、話の流れから父との草野球を詠んだ二首。

・生涯初のカーブを父に投げ込みし野球場には芝生なかりき

・空地にて父と交わししキャッチボール何故か心に浮かび来る朝

前者は少年野球場での、後者は自宅近くの空地でのキャッチボールである。かつては日本中のどこでもこのような光景を見かけたものだが、今では公園でのキャッチボールは禁じられていることが多いし、そもそも野球人口よりサッカーを楽しむ子どもの方が多いように思われる。

次に、野球場でのプロ野球観戦の歌。

・名にし負う東京ドームは閉ざされて桜吹雪も舞い込みて来ず

・父に連れられ祖父待つ席に向かう折り通路出づれば芝生の緑

・スタンドのどよめきを背にぬばたまの選手楊枝を銜えて立ちぬ

・人工の芝生なれども弾みたる打球の後に土煙立つ

・花曇りドームの中は明るくて五万余の人一球に沸く

一首目は、地下鉄サリン事件数週間後。

二、三首目はプロ野球初観戦の甲子園球場での阪神vs巨人ダブルヘッダー。「ぬばたまの選手」とは、阪神にいたカークランド。

掛布の前の背番号31である。四、五首目は一日目と同じく東京ドームでの巨人戦。人

工芝も進化しており、クッションの効果も考慮され土が埋め込まれているため、土煙が立つのだ。

野球観戦の歌と言えば、俵万智『サラダ記念日』にも。三首引く。

・球場に作り出される真昼間を近景として我ら華やぐ

・我がカーブのピンチも何か幸せな気分で見おり君にもたれて

・ナイターの風に吹かれていたる君のグレイプフルーツいろの横顔

これらは恋の歌だが、野球観戦という場面設定がとても効いている。

終わりに、再び拙作より、プロ野球の監督や選手を詠んだ歌を引かせて貰う。

・営業に短気は禁物と思う夜退場させらるる山本浩二 『天機』

・昔ホームラン王たりし人面痩せて帽子の大きき目立つベンチに 『野球小僧』

・遠き位置より大画面テレビ見ておれば松坂大輔打ちこまれたり

・長嶋の引退試合を観るためと掃除サボりし墨田中学

・練習後ボール片付けスパイクの跡を平せらる松田宣浩